

和良の郷だより

萌芽号
3月1日号
和良おこし
協議会発行



感じられる。
1. 持続可能な集落をめざし、和良町を魅力ある地域となるよう、各種研修会等を実施

画や祭礼の支援等を行い、和良町の魅力を発信。また、和良帖まつりでは、下土京地区のパンの販売などを支援した。
4. 集落づくりや和良町への関係人口増加を高めるため、フェイスブックやその他において情報発信を継続的に実施し、ふるさと和良町への繋がりを推進

平成30年度 和良おこし協議会の取組み

集落点検フォローアップ事業実績報告

和良町各集落において、集落点検の推進とアクションプログラム支援を目的に協議会メンバーと共に月例の推進会議を開催したほか、集落の現状把握と課題、今後の取組みについての支援方法などについて協議するが、T型集落点検からの期間が長く、意識の低下もあり、新しい方向性を考えるときに来ていると



全国各地で行われた移住セミナーで来場者に向け和良町で暮らす魅力について語る

ひとつは、和良地域協議会との共同開催による岐阜大学地域学部林琢也研究室の卒業生と、大阪産業大学川田美紀研究室、四天王寺大学五十川飛暁研究室の卒業生による地域づくりに関して、和良おこし協議会をテーマにした地域学実習の発表会を開催した。また、郡上カンパニー参加メンバーと地域住民による集いを行い、ふるさと和良で取り組んでいける事業の提案や、ふるさとの未来についての意見交換を行いました。

2. 移住・定住・交流による地域活性化への取組み

これまで推進してきた自治会と連携した空き家活用による移住を促進してきた。郡上市の移住相談会窓口である「ふるさと郡上会」と協力し、「郡上の空き家拝見ツアー・和良編」として協議会が行う空き家を活用した移住促進事業の取組を紹介し、移住相談を受けたのに加え、和良帖まつりにおいても、共に移住相談窓口を開設して5組ほどの移住相談を受けている。

また、若年層へのふるさと帰帰を目指すべく、新成人を対象にした「新成人の集い」を開催し、ふるさと和良町への関わり方について意見交換を行った。その他に、高齢者との交流機会を設け、各地で開催されている高齢者見守りサロンや、その他サロン活動を支援し、音楽を用いた交流、当該施設「わらおこし」を使用した各種体験イベントなどを実施した。

さらに、東京都で開催された「ふるさと帰帰フェア」や、岐阜県主催の「移住セミナー」（東京・名古屋）、郡上市八幡町で開催の「町家オィデナーレ」などのイベントにも参加し、和良町や郡上市、岐阜県への移住を積極的にPRした。

3. 集落づくりに関する支援事業

横野地区における蕎麦栽培。下土京地区の移住者を講師に子供向けパン作り教室の開催。田平地区、東野地区、横野地区における蛭に関する諸活動と和良蛭を守る会発足と活動支援。各集落や町内で開催される企



町家オィデナーレでも和良町をPR@八幡町



ふるさと和良を愛する新成人の皆さん

現在、和良おこし協議会が移住を考える方にご紹介できる空き家の情報は10件あり、今年度、和良町に移住された方は「6世帯12名」になります。
平成27年度から始めた空き家を活用した移住促進も4年が過ぎ、この小さな里に和良おこし協議会を通じて移住した人は既に「24世帯51名」となっています。移住してこられた方は高齢のご夫婦から、定年帰農を志すご夫妻、赤ちゃんを抱えた若夫婦、子ども達をたくさん連れた家族、単身の若者など実に様々です。中には都会にはない田舎ならではの付き合いや人間関係、そして冬の厳しい寒さなど、自分の思い描いた田舎暮らしとのギャップに戸惑われる方も少なくありません。しかし、その一方で移住された目的はいろいろですが「ここに来てよかった」と明るく話していただけの方の存在も確実にあります。自分なりの視点でここに暮らす「小さな意味」を見つけて欲しい。

体験型ツーリズム推進事業実績報告

和良町を流れる和良川には、日本一美味しい和良鮎や和良蛸、国の特別天然記念物のオオサンショウウオなどの地域資源がある。また、これらを目当てに和良町を訪れる人も近年増加傾向にある。

これらの豊かな和良の宝を活用した体験型ツーリズムのメニュー作りやプログラムの実証等について次のとおり実施しました。

1. 和良の郷体験型ツーリズム推進協議会会議の開催

観光協会、地域協議会、和良川漁協、道の駅、キャンプ場関係者などによる推進会議を2回開催し、和良町の自然などを利用した体験型ツーリズムのプランづくりや、意見交換を行い、今後の事業化に向けて実証等を行ったほか、課題や問題点についても協議した。

2. 地域資源の再点検と活用方法の検討

和良川の自然資源（鮎、オオサンショウウオ、蛸）や、ろうけつ染めや鼻笛等の新しい資源、その他資源について活用検討を行った。

3. 体験型ツーリズムメニューづくりと実証等

和良蛸を活用した事業推進では、6月9日〜24日までの土日にシャトルバスを6回運行したほか、座学と和良鮎の食事がセットになった「和良蛸を守る会」案内による観賞ツアーを1回実施し遠くは山梨県からの参加者もあった。また蛸観察地には案内所と駐車場を23日間設置し、延べ272名の方にボランティアスタッフとして参加協力をいただいで、観賞に訪れる方への対応にあたりました。期間中、現地で計測した入込数は約2,300人となった。訪れる人にヒアリング調査を行い今後の事業推進に向けた検証を行った。和良鮎釣り体験教室を7月下旬の平日に5日間実施し、計28名の参加があった。WEB、口コミでの告知のみで参加者枠が埋まり、年齢層は小学2年生から70歳代まで幅広く、女性や遠くはハワイから参加された方もあり大変好評でした。加えて8月には大阪産業大学の川田ゼミ、四天王寺大学の五十川ゼミを対象とした鮎釣り教室も実施。また、遊び体験予約サイト「じやらん」への掲載と直接の問合せに応じた鮎釣り

教室を5日間開催することが出来た。

参加者からの要望もあり、鮎釣り教室で道具の扱い方を学んだ参加者に限定した、鮎釣り道具のレンタルも行い2日間で6名の利用があった。

8月にはオオサンショウウオ探索ツアーを実施。あいにく降雨増水の為、雨天プログラムに変更したが、3組の親子に参加



和良川の魅力を発信するツアーを多数開催
参加者に笑顔を届けリピーターも増えている

いただけました。岐阜大学地域科学部向井貴彦先生を講師に招き座学を行った後、和良歴史資料館で飼育されているオオサンショウウオの観察をしました。その後、天候の回復を受け、大月の森キャンプ場でアカハライモリ探索ツアーを実施したところ好評を博した。

㈱日本旅行からの依頼を受けて、7月にオオサンショウウオ観察ツアーを実施。岐阜大学地域科学部向井貴彦先生を講師に招き座学を行った後、和良川で野生のオオサンショウウオを探し、和良鮎の塩焼きと和良のお米を使った塩むすびで昼食。午後からはトマトの収穫と和良鮎の買取所の見学を行う体験ツアー。大人16名、子ども13名の合計29名の参加者があり大変好評であったことから、既に次年度も継続開催して欲しいとの依頼を受けている。

長良川おんぱくの夏のキッズ企画として、8月にガキ大将養成講座を実施し、親子で10組25名の参加があった。池戸浄二氏、大澤克幸氏、加藤真司氏の3名に講師をお願いし、協議会メンバーや町内の有志の応援を受け、和良川をフィールドとした川での様々な遊び方を習い、河原で鮎の塩焼きと和良のお米の塩むすびを作って食べる体験を行った。

長良川おんぱくの秋の企画として、大澤克幸氏を講師に和良川の匠直伝・鮎の串打ち&一夜干し体験を1

0月に開催した。当日のキャンセルを含み10名ほどの参加となりました。このうち1組2名は3年連続でのリピーターさんで同じ企画であっても毎回お話の中心やプログラムに変化もあり、楽しみに参加しているという感想をいただきました。

下呂市を中心とした広域観光ルート形成事業において、インバウンド向けの体験ツアーを楽天トラベルが持つ海外旅行者向け体験プログラム予約サイト「Joytag」(ボヤジン)に掲載した実施には至らなかった。7月の豪雨と8月の猛暑の影響も少なからずあるように思う。

遊び体験予約サイト「じやらん」を通じ鼻笛体験の申込みがあり鼻笛の吹き方講習と紙製の鼻笛のクラブ体験を開催した。グループ参加の学生さんを対象に、加藤真司氏に講師をお願いした。

初心者ばかりでしたが短時間でも綺麗な音が出せる様になり、木や陶器で作られた様々な鼻笛も試奏し、素材による音色の違いなどを楽しんでもらう事も出来、参加者からは好評であった。

染作家である岡田明彦氏を講師に迎えた、ろうけつ染め体験教室を7月と11月の2日間開催。広い会場で大きな作品制作が出来る事と好評で回を重ねるごとに、リピーターも増えてつある。地域性のある資源ではないが、古民家とマッチし、ゆったりと時間をかけて丁寧な作品づくりに取り組めるところも魅力のひとつとなっている。

今年度、和良おこし協議会が企画した体験型ツーリズムの参加者は前年対比150%となる。

なお、この3月にも、ろうけつ染め体験教室と鼻笛体験教室の開催を予定している。

和良町の人口 平成31年2月1日現在

